

II 講演会に関して

中野香織先生は自ら新しい学びの分野を切り開かれ迷いも無くここまで歩んでこられたのかと思っていたのですが、今の私と同じように悩んだ末に今があるのだということをお聞きしどこか嬉しくも安心した気持ちになりました。大学受験のときに自分のいきたい道へ行っただけでもかっこいいと思いました。「回り道を恐れるな。あえて回ればその分視野が広がり高いところまでいける」というようにさまざまなことはまずやってみて複眼視点を持つことが大切だと教わりました。一生懸命努力すればその努力を必ずみてくれて評価してくれる人はいるということもわかりました。「人生はものはずみ。ただ、ものはずみがあるならば、ものにしなくちゃなりません。」という言葉や周囲に自分を委ねるほうが上手くいくなど、今はあんまり分からないこともあったけど、もう少しいろいろと経験したら分かるのかなと思います。大変心に響くお言葉、お話を聞くことができ、がんばろうという気持ちになりました。

中野さんは今まで研究されてこなかった「ファッション文化論」を研究されてきて、人がやらないうことをやるのは勇気があることだと思うのですごいと思いました。中部高校からそんなパイオニアが出現したところを見ると、中部はすごい学校なのだと改めて思いました。また高校時代には中部の先生を信頼して授業を楽しんでおられ、その「先生に報いる」という意思や考えにとっても尊敬を感じました。大学で学ぶことは答えのないことを議論することで、高校での何時も答えの出るものを学ぶのとは違い、未知のものを学び、研究することは学問の本質だと知りました。中野さんのお話は学ぶことが多くありました。心に残った言葉はたくさんありますが、「遠回りをすること」が大切なことがよくわかりました。また勉強については、「学問は忘れるためにやる。忘れた後に学問は生きてくる」というような内容が励みになりました。併せて中部高校での授業がいかに大切か再確認できました。中野さんのように、一日一つ感動し続けたいと思います。

「高校の勉強は将来に役立つ、一日一感動を目指して毎日を過ごす」、そんな心意気で学生生活を送られた先生の話は、とても具体的でたくさんの教訓がありました。特に印象に残ったのは「学問がその人に効果を出すのは忘れたあと」という言葉です。回り道をし、苦勞することで視野が広がり、高いところまで行ける、つまり後から必ず生きてくるのだから、回り道をして絶対に損はないということを教わり、私はどんな時でも努力を惜しんではいけないと強く感じました。

中野さんの回り道を恐れない生き方はとてもかっこいいと思いました。私はいつも直線的に物事を見るというか、1つのことを考えたら他のことに余裕を持たない性格です。けれど中野さんは理数科から文転したり学士入学をしたりと、いろいろチャレンジして自分の生き方を模索し続けていました。「複眼視点」という言葉はなるほどと思い、私も幅広いことに取り組みたいと思いました。中野さんの言葉で特に心に残ったものは「一日一感動」です。学校生活は毎日暮らしているとありふれた部分もたくさんあり、だんだんわからなくなってきました。その中で「感動」とは難しそうです。けれど何か見つけようと意識することで生活は豊かになっていくと思います。それを続けていたら、自然に感動することが増えるのかもしれない。

スライドを用いて見やすくまとめて下さっていただけでなく、わかりやすい具体例をいくつも挙げて、親しみやすい内容にされていたので、とても面白かった。講師の先生自身も言われていたが、他では聞けないような特殊な経験の話が多く、特に理科Ⅲ類から文科Ⅲ類に転向したという話を聞いたときには、本当にそんなことができるのだろうかかと少し疑うほど驚いた。流石に一度の講演会で人生の目標を変えるわけにはいかないが、やはり特別な人生経験だったと思うので、この講演会の内容を心にとめておきたいと思う。

A 東京方面

中野香織先生はとても変わった経緯をたどられていて、とてもびっくりしました。しかし中野先生は多大な努力をされ、自分の意志を貫くだけでなく他人に自分を委ねてみるという冷静かつ客観的にもものを見ることが出来る方で尊敬しました。また、「ただ自分は皆がしていないことをただけだ」という言葉を聞き、学問は学ぶだけでなく、求めることも必要なのだということが分かりました。そして「1日1つ感動することをつくる」という言葉に感動しました。どんなことにでも、少しでもいいから感動することで脳が生き生きとし、生活がより快活になると聞き、これからは実践していきたいと思います。とても素晴らしい講演会でした。

心に響く言葉ばかりで、何を書こうか迷いますが、この講演会を通じて、気持ちが楽になるのは感じました。私には将来やりたいこともなく、何か夢や目標を見つけなければというあせりから、常に追い詰められているような気分でした。このようなときに、中野先生の「時代が変われば価値観も変わる。自分のやりたいことをやる。」という言葉が飛び込んできたので、救われた気分になりました。また、「期待には120%応える」という先生の姿勢にも深い感銘を受けました。私は今まで100%で十分に満足だと判断していましたが、期待された以上のことをやる人が本当に必要とされる人なのだと知ることができ、多くのことを得た講演会でした。

Ⅲ 大学探訪（7月22日）に参加して 一橋大学

1 大学の説明を受けて印象に残ったこと

自分は経営に関心を持っているので、商学が中心の一橋大学の説明にすごく興味を惹かれました。また、企業ごとの経営戦略など細かな内容を学ぶという商学部と、経済全体の動きを時代背景とともに総合的に学ぶという経済学部のそれぞれの魅力を理解することができました。商学部は実践、経済学部は倫理的という2つの学部の線引きをはっきりと理解でき、また、一橋大学からの公認会計士の合格率トップという事実は印象に残りました。

学校が学校なので、ものすごく真面目な人が来るのかと思っていたが、東大と同様、ノリのいい人たちだった。話がとてもためになるもので、親がうるさく言う「いい大学」が、どれだけ、どんな面で「いい」のかが分かった気がする。自分でも、どうせ学ぶなら「いい大学」で学べたら楽しいだろうと、具体的なモノが掴めたと思う。



一橋大学についてまず初めに思ったことは建物がレトロであるということでした。レンガ造りの建物は知的で落ち着いた、まさにこの大学のイメージそのものの雰囲気を感じていました。学部は四つと少なく敷地も狭かったのですが、その分濃密な勉強が出来そうだと感じました。

一橋大学は4つの学部だけで深く勉強が出来る場所だと聞きました。一橋大学は東京大学と違って企業に進む人が多いことも分かりました。OGの方は社会学部でゼミについて、まだ誰も答えを知らないことを探究する面白さを語っておられ、とても印象に残りました。

2 体験内容

OGの方に、一橋大の図書館や、その他の施設を案内していただき、歴史あるいくつかの建物を見学しました。レトロで、自然に囲まれていて、落ち着いた雰囲気を感じました。一番印象に残ったのは図書館です。『リヴァイアサン』や『国富論』の初版が展示されていて、さらに移動式の本棚などがあり、印象に残りました。また、校舎が美しい桜並木の大きな道を隔てて東、西と分かれていて、清潔な印象を受けました。